

## 微小粒子状物質 (PM2.5)

### (1) 一般局

表1に示すとおり一般局の北部、西南部、小立野、西部、中央の5測定局全てで長期基準による環境基準を達成した。

年平均値は、図1に示すとおり過去10年間に於いて減少傾向であり、全国平均と比較すると低い結果となった。

1日の平均値の年間98%値は、図2に示すとおり前年度と同程度であった。

表1 一般局における微小粒子状物質の年間測定結果

測定局	有効測定日数	測定時間	年平均値	1日平均値の年間98%値	1日平均値の最高値	1日平均値が35 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ を超えた日数
	(日)	(時間)	( $\mu\text{g}/\text{m}^3$ )	( $\mu\text{g}/\text{m}^3$ )	( $\mu\text{g}/\text{m}^3$ )	(日)
北部	355	8615	6.9	17.8	23.4	0
西南部	355	8606	6.4	16.2	19.0	0
小立野	296	7174	4.5	13.3	17.3	0
西部	356	8620	6.4	17.0	21.6	0
中央	357	8632	5.8	14.6	19.9	0
本市平均			6.0	15.9		
全国平均(R04)			8.8			
環境基準			15以下 (長期基準)	35以下 (短期基準)		

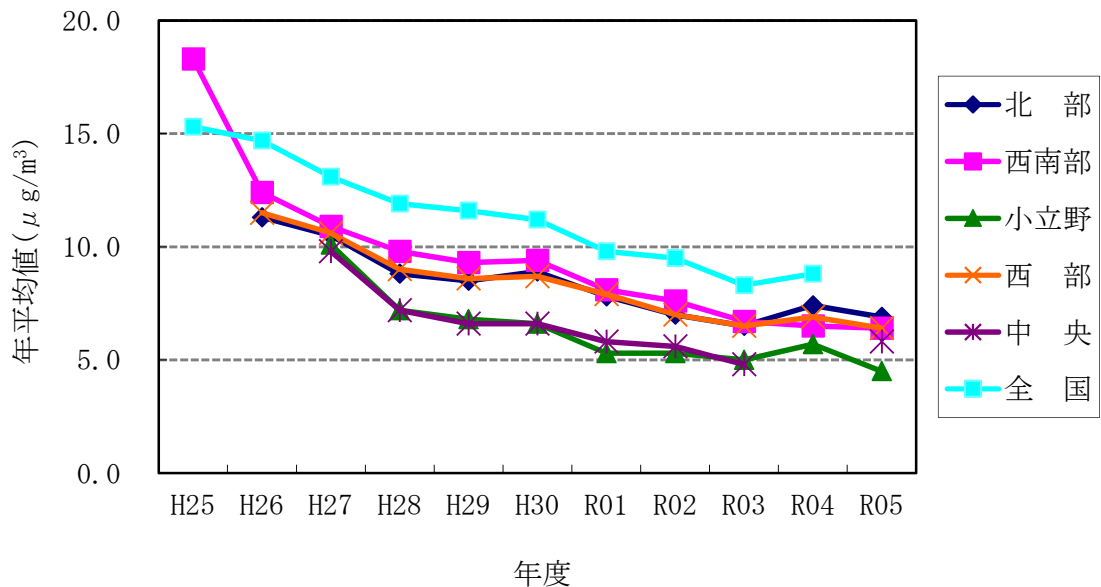


図1 一般局微小粒子状物質の年平均値の経年変化 (長期評価—長期基準)

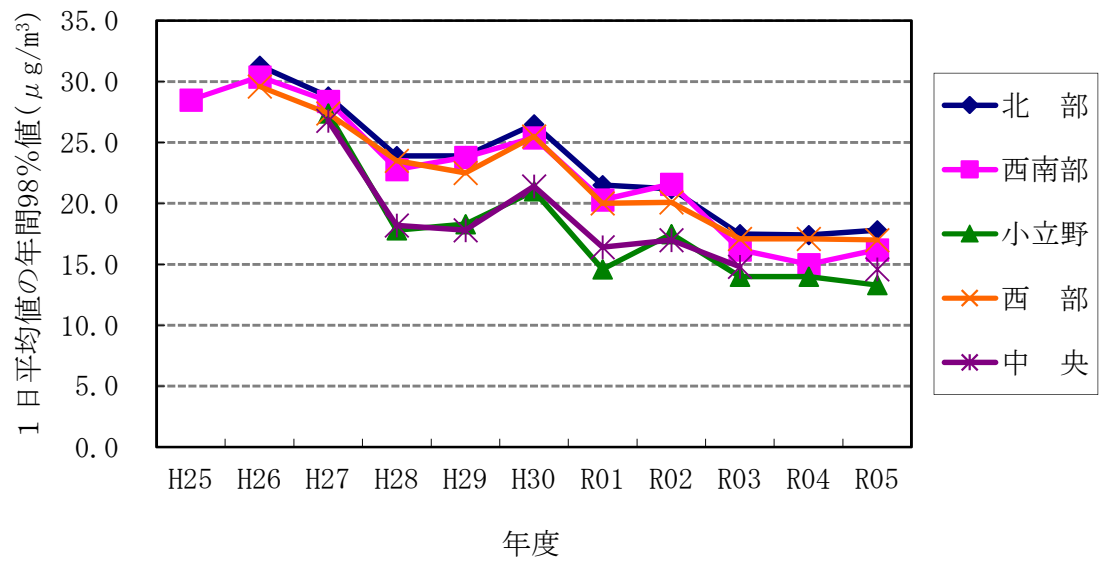


図2 一般局微小粒子状物質の  
1日平均値の年間98%値の経年変化（長期評価－短期基準）

(2) 自排局

表2に示すとおり自排局の山科局で長期基準、短期基準による環境基準を達成した。年平均値は、図3に示すとおり過去8年間においてほぼ横ばいで令和5年度は、全国平均と比較しても低い結果となった。

表2 自排局における微小粒子状物質の年間測定結果

測定局	有効測定日数 (日)	測定時間 (時間)	年平均値 ( $\mu\text{g}/\text{m}^3$ )	1日平均値の年間98%値 ( $\mu\text{g}/\text{m}^3$ )	1日平均値の最高値 ( $\mu\text{g}/\text{m}^3$ )	1日平均値が $35\mu\text{g}/\text{m}^3$ を超えた日数 (日)
山科	356	8622	5.8	14.7	20.5	0
全国平均(R04)			9.2			
環境基準			15以下 (長期基準)	35以下 (短期基準)		

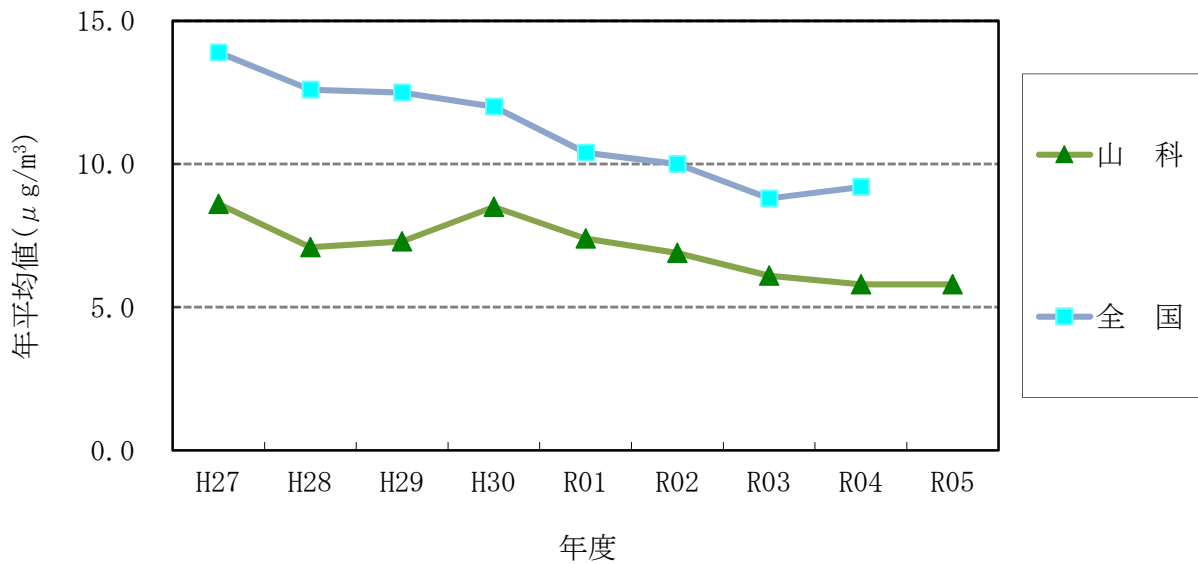


図3 自排局における微小粒子状物質の年平均値の経年変化（長期評価－長期基準）